入院支援業務の一部稼働について

看護部 業務担当部長　阿部 順子
看護部 看護一担当課長　矢田 美奈子

市立札幌病院新ステージアッププランに基づき、看護部では昨年6月から、外来・病棟における入院に係る業務を集約して、入院支援係として稼動しました。

予定入院でクリニカルパスの適応が決定した患者さんを対象に3診療科からスタートし、10月から順次、対応する診療科を拡大し、平成28年5月には全診療科を実施する予定となっています。

当院は、入院の当日または翌日に手術や検査、治療を開始します。そのため、患者さん、ご家族は入院後、間もなく様々な説明を受けることとなり、心身ともに治療への十分な準備をする余裕がありません。

そこで、入院決定時に看護師が患者さん、ご家族に基本情報などを聴取しながら患者さんの不安や要望を確認、クリニカルパスの説明、退院後の療養生活の準備などを行い、安心して入院生活を送っていただけるよう取り組んでいます。

入院支援係が稼動したことで、病棟看護師は入院後の安全で安心なケアの提供につなげることができ、また、入院時に行っていた業務を外来で行うことで治療やケアの効率化が図れたと評価しています。

稼動時は、2階外来の患者指導室を活用して業務を行っていましたが、12月7日からは1階の地域連携センターに移設しました。3つの個室と1つのカウンターができ、患者さんのプライバシーにより配慮できる環境となりました。

現在は、さらに入院支援係の拡大と患者サービス機能の一元化に向け、医事課、退院調整担当係と連携を強化しながら、体制構築に努めています。患者さん、ご家族に満足いただける医療の実現に向け、取り組んでいきます。

新設された個室の様子

リハビリテーションの充実　～365日リハビリに向けて～

リハビリテーション担当課長　小山 昭人

急性期病院におけるリハビリの大きな役割のひとつには、治療と並行して介入することで機能回復を加速させ、以前と変わらぬ生活の場に速やかに戻し営みを継続できるように支援することがあります。発症後/術後1～2週間の超早期に介入するリハビリの効果は大きく[1)]、とくに予備力の低下した高齢者には、安静による廃用的機能低下を引起こす前から介入することで良好な治療経過を辿り、早期に自宅退院へと導くことができるからです（図-1）。

当院で高度な先進医療を受けられた後、安心して元の生活に戻れる病院づくりに応えるべくリハビリテーション科理学療法部門（図-2）では、H25（2013）年11月から週休日土曜日のリハビリ診療を開始しました。整形外科病棟の術後患者さんを対象に理学療法士2名の勤務体制で開始しました。開始後2年目には呼吸器外科や心臓血管外科の患者さんも術後早期リハビリが受けられるようにと一部拡大して運用中です。今年10月末までの約2年間（101週の土曜日）で、土曜日リハビリ診療を利用された患者さんの延人数は1,721人に上っています。介入前後におけるリハビリ実施日数の平均を比較しますと、介入前17.5日、介入後14.8日、その差は2.7日短縮という早期回復に寄与したと考えています。またアンケート結果では、「土曜日リハビリをやってよかった」92%、「機能回復が早まった」83%と好評を得ることができました。

そして今年作業療法部門（図-3）も11月7日より整形外科病棟の術後患者さんを対象に作業療法士1名の勤務体制をとり開始しました。理学療法士は主に身体運動機能にアプローチして基本的な日常生活動作の自立を促すことを業としている一方で、作業療法士は生活環境への適応を、精神機能や高次脳機能にも働きかけ、機能回復と環境調整の両面から自立した生活が営めるようにアプローチすることを業としています。これからの展望として、日曜日や祝日、GWやSW、年末年始などのご家族が来院しやすい曜日にご家族ともに病気の回復、機能改善を見守りながらリハビリが実施できる体制を整えていきたいと考えています。

超高齢化に伴う疾病構造の変化のなかで、人が「生きる」「生きていく」ことを治療全体の中心に据え、それを理解し、受入れ、克服できるように寄添うリハビリが、これからますます求められことでしょう。健康寿命の延伸が叫ばれる昨今、単に病気がないことを「健康」とするのではなく、「生活機能」全体が高い水準にある[2)]ことを願う地域住民のニーズに応えていくことが、これからの医療であり市立札幌病院に求められる姿ではないかと思います。

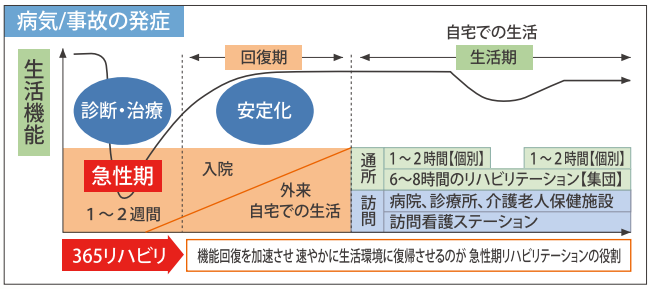

図-1 リハビリテーションの役割分担（一部改変）（日本リハビリテーション病院・施設協会「高齢者リハビリテーション医療のグランドデザイン」をもとに厚生労働省老人保健課が作成）

リニューアルしたリハビリテーション室

図-2 理学療法室 3F

図-3 作業療法室 2F

参考図書/文献
1）迫井正深：平成24年度診療報酬・介護報酬同時改定のねらい 総合リハ・41巻10号・901～909・2013年10月
2）上田敏：ICFの理解と活用 萌文社 2015年